



秘書課 ☎66♦1161

昭和57年1月31日に実施された市長選挙は過去の市長選で最高の投票率(85・90%)となり、当時の助役であった大場進氏が長谷部市政を引き継ぎました。

3期12年にわたる大場市政においては、福祉の充実のほか、道路整備や調整池の建設をはじめ、埋立工事、鉄道高架事業などが次々と着工されました。

なかでも福祉の面では、障がい者のための施設充実に力を注ぎ、つつじ寮(58年)、ゆたかホーム(62年)、大塚授産所(平成3年)を開所しました。また、障がい者に仕事を提供する施設「愛知太陽の家」の誘致(59年)にも尽力されました。

さらに59年4月、市制30周年を記念して、「第1回国際障害者レジャー・レクリエーション・スポーツ大会」を開催しました。

道路整備においては、長年の悲願であった東名高速道路音羽蒲郡インターチェンジと、これに通じる県道長沢蒲郡線(オレンジロード)が昭和61年11月開通しました。これにより蒲郡の北の玄関口ができ、産業・観光での大きな活力につながりました。

観光振興においては、蒲郡まつりでの三尺玉花火の打ち上げ(60年)、竹島橋の架け替えや、時代行列をメインとした蒲郡俊成祭の開催(61年)など、観光客の誘致に熱心に取り組みました。

競艇事業の収益は重要な財源であったため、施設改善を積極的に行い、売上げを着実に伸ばしました。三河塩津駅の誘致(63年)や大規模な施設改善(平成3年)などの効果により収益が増大した結果、市の財政が潤い、公共施設の充実に図ることができました。現在でも競艇事業からの収益金は、市の貴重な財源の一つとして有効活用されています。

市職員、助役を経て市長となられた大場氏は、市の財政基盤の構築をはじめ、市政の発展に多大な貢献をされました。



# 生命の海から

学芸員 山中敦子

生命の海科学館  
☎66♦1717

## 身近な不思議・再発見 太古からの使者

あなたの身近にある一番古いものは、なんですか？

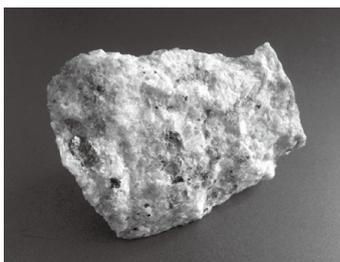
祖父母が大切にしていた時計、3代前から伝わる秘伝のタレ、先祖代々伝わる古文書など、いろんな候補がありそうです。ですが皆さん、もつとずうっと古いものをお忘れですよ。人が作ったどんなものより古く、ひっそり目立たずそこにあり続け、たまにつまずいた時に改めてその存在に気付くアレ、そう、石ころです。蒲郡の道端や公園でコンと蹴り飛ばしたその石ころは、おおむね6千万から9千万年前、まだ恐竜たちが地上をわがもの顔に闊歩(かっぽ)していたころに生まれたものたちです。

## 石の輪廻(りんね)

ちなみに、石も岩も砂も、大きさが異なるだけで本質は同じです。大きな岩の塊として生まれ、大地の変動によって割れて石になり、風化し砕けてやがて砂になり、それが堆積して岩に戻ったり、火山の活動によって灼熱(しゃくねつ)のマグマになって、冷えてまた新たな岩に生まれ変わったり。私たちは漠然と石を不変なものと思っ

## 見つめ直してみよう

秋晴れの下の散歩の途中、石ころを蹴り飛ばしたとしたらそれは、太古から来て未来へ向かう旅の途中の、何千万、もしかしたら何億年も前に生まれた大地のかげらかもしれません。たまにはしみじみ、見直してみたいかがでしょうか？



蒲郡周辺でよく見られるこの石は、およそ9千万年前にマグマが冷えてできたもの。赤紫色のガーネットという宝石が見られることがあります。